



かけがえのない「いのち」を大切に・自殺予防を願って

2009.7

No. 106

社会福祉法人

北海道いのちの電話

「親離れ、子離れ」

日本キリスト教団札幌教会

米倉 美佐男 牧師

長い人生の中で一度や二度は前に進むか右に行くか左に行くか選択を迫られる分岐点、ターニングポイントがある。私にとって、今回の札幌での新生活はまさに人生の大きな分岐点であった。

学生時代に70年安保闘争を体験し、1969年に入学した神学校もその影響を受けた。紛争を通して様々な経験体験をして今日に至っている。1969年4月1日、桜が満開の季節、私は希望を胸一杯に神学校に入学した。伝道者になることを決心したのは高校3年の夏休みであった。高校時代は勉強もせずにサッカーに興じていた。自分の思いでは将来ジャーナリストか外交官になりたいとの希望であった。現実的になるにつれ結論としては伝道者の道が示され今も続けさせて頂いている。

実は北国での生活を望んでいたわけではない。寒い所は本来苦手なので動いたら次の任地は暖かい沖縄にと思っていたが、私の信じる神様はまったく正反対の場所に行くよう命じてくださった。神様の思し召しは断る訳には行かない。しかし、本当は躊躇した。いずれも家族に関しての事。幸い妻は一緒に来てくれたので単身赴任という危機的な状況は回避できた。彼女には感謝している。二人子供が与えられているが長女は早々結婚し静岡で夫婦共々牧師をし、婿殿に託したのでこれもまた感謝である。躊躇したのは長男の事である。もう成人して数年経つが定職につかずふらふらしていた。北海道行きを告げ「どうする?」と問うた所、一緒には行かないと言う。そして自分で就職口を捜し

てきた。まだ泣きついてはこないの、ようやく自立できそう。昔から可愛い子には旅をさせろと言う。先人の慧眼に改めて教えられることが多くある。

二つ目は私の両親のことである。妻の親は、父はすでに他界し母は義兄ご一家と同居しているので一安心である。私の親は80半ばの老人二人で生活している。北海道と一緒に行きませんか誘ったが、父は寒い所は苦手とあっさり拒絶。母は軽い認知症の傾向があり最近孫の名前、顔も分からなくなってきた。妻の名前も出てこないことがある。かろうじて自分の子供は分かるらしい。私と弟の名はまだ出てくる。ところが久しぶりに会った私に、まだお嫁さんはいないの?と真顔で聞かれた。一瞬エッ!と思ったが否定しないで早く紹介してねと言うとニコニコしている。しばらくすると妻の名を言い元気にしてる?と言う。その母を父は三度の食事、生活の面倒を見てくれている。まさに老老介護の問題である。祈り心配するだけで何もできないが、その父が北海道行きを告げた時、神様のご命令なら「行って来い」と言ってくれた。

東京にいる時は何かあればすぐ行けるという安心感があった。今はその安心感はない。今あるのは神様の守りがあるという委ねた気持ちである。必要なものを必ず備えて下さるお方にすべてを委ねた時に私の子離れ、親離れの問題は解決したのだった。

ひとりで悩まず いつでも相談

電話相談

011-231-4343

聴覚障害者の方のファックス相談

011-219-3144

2008年 統計に見る自殺

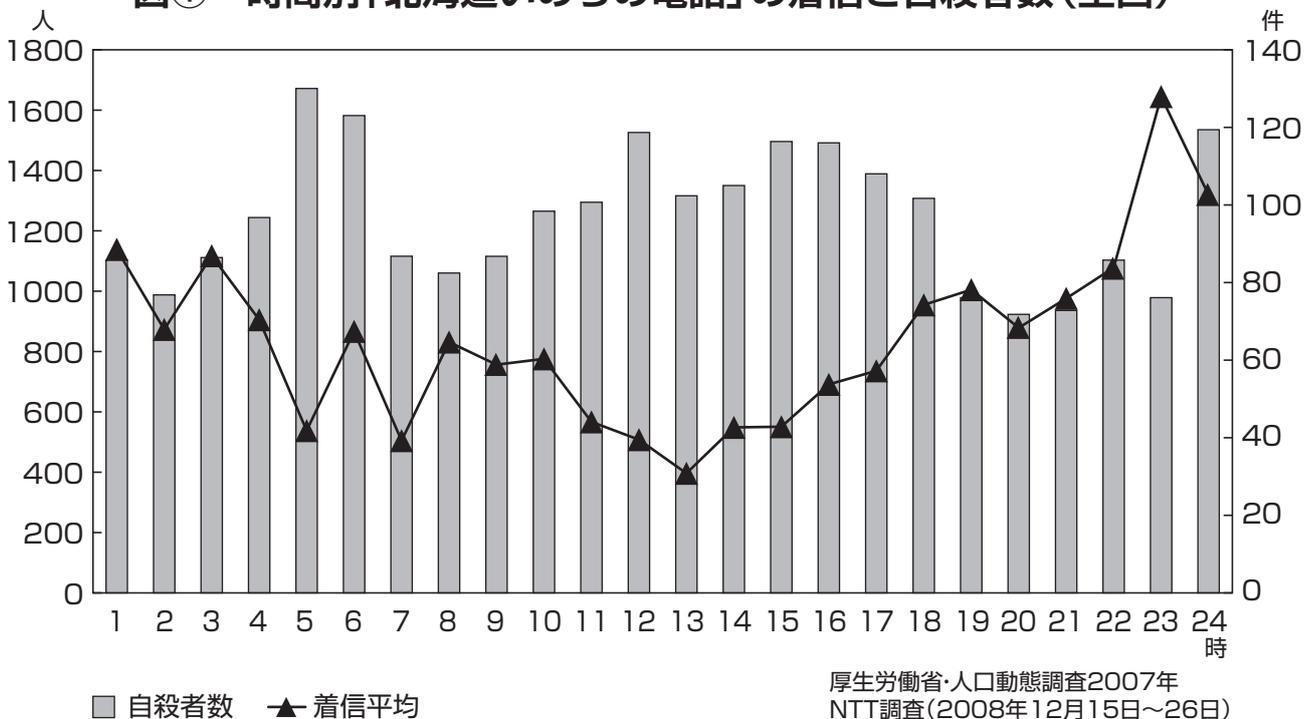
時間は明け方が多く 場所は自宅が多い

深夜の支援相談機関の充実が課題

表① 「北海道いのちの電話」2008年・年間統計（ ）内は前年

総受信件数	17,297件	(17,341)	自殺志向の総受信件数	754件	(689)
男性	8,586件	(7,840)	男性	273件	(185)
女性	8,711件	(9,501)	女性	481件	(504)
無言の件数	2,520件	(2,884)	一日平均受信数	47件	(48)
			1件平均相談時間	29分	(30)

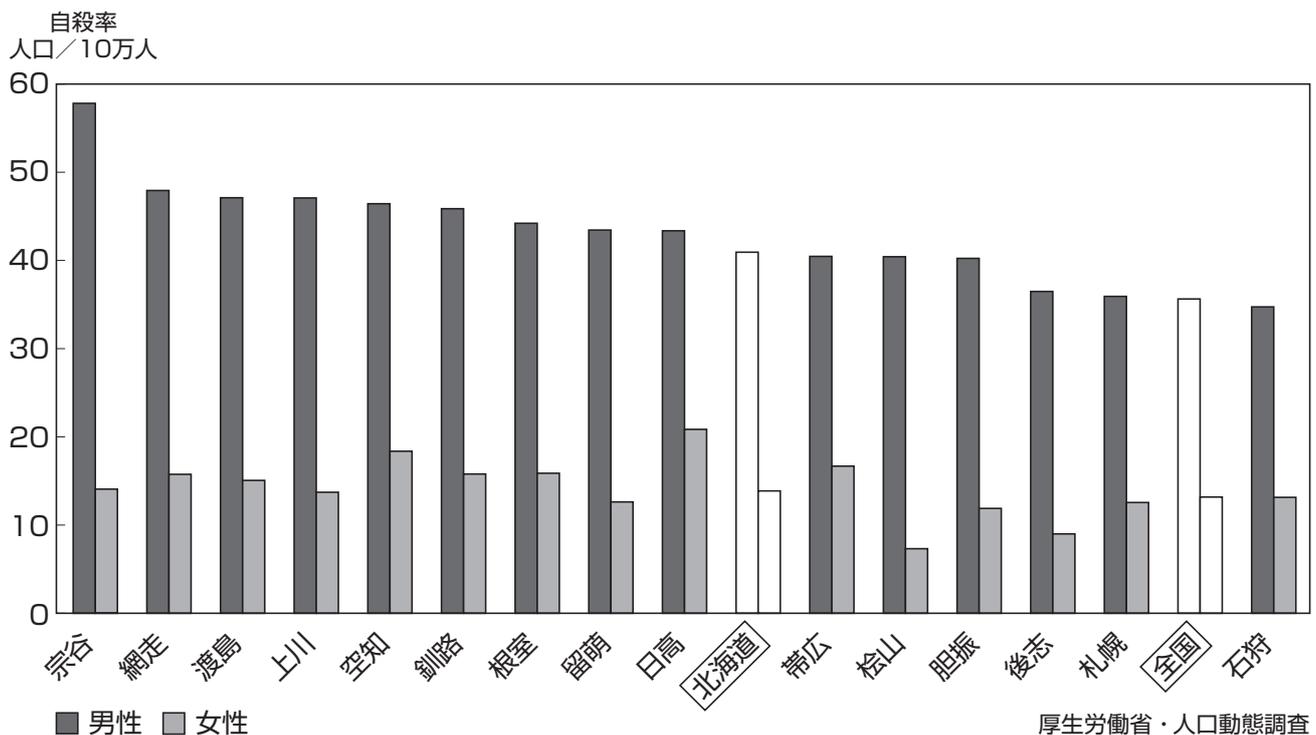
図① 時間別「北海道いのちの電話」の着信と自殺者数(全国)



自殺の時間と場所の現実(図①)

自殺による死亡者数の71%を男性が占める。亡くなる時間帯は、明け方の2時間に突出(男性11.5%)、場所は自宅が一番多い(男性51.8% 女性62.0%)「平成20年版自殺対策白書・内閣府」。しかし深夜の相談に対応できる機関は全国的に見てもごく限られている。「北海道いのちの電話」が昨年暮れに、NTTの協力を得て、どの時間帯に着信数が多いかを調査した。その結果、夜間特に零時前後の着信数の多いことが判明した。

図② 支庁別・性別自殺死亡率の状況(2003年～2007年)



北海道の自殺率全国14位から9位へ悪化(図②)

北海道の自殺率は、2007年は29.4で全国14位であったが、2008年は31.2で全国9位となった。支庁別で男性の自殺率が特に高いのは、宗谷支庁57.7 網走支庁47.8 渡島支庁47.0である。全道平均は40.8である(自殺率は2003年～2007年の平均)。つまり札幌周辺の自殺率の低さが全道の自殺率を下げている。

「地域自殺対策緊急強化基金」

内閣府は平成21年度補正予算において『地域自殺対策緊急強化基金』を造成した。基金は3年間で100億円。北海道には3年間で3億2700万円が配分される。道は平成21年度補正予算で、6千500万円を計上した。すでに平成21年度本予算において「北海道いのちの電話」に対する補助金100万円は決定しているが、この補正予算では運営要領上の様々な条件により、『地域自殺対策緊急強化基金』からのさらなる補助はできないと、道保健福祉部福祉局は見解を表明している。

まとめ

「北海道いのちの電話」の総受信件数は2003年をピークにその後1万7000前後で推移し、頭打ちとなっている。これは、相談員の人数が減少傾向にあることが最大の原因である。深夜の着信数の多さにもかかわらず、深夜の相談員の確保に苦慮しているのが現実である。(表①・図①)。

また郡部の、特に男性の自殺率の高さにもっと目を向け、対策を急ぐべきではないだろうか(図②)。

相談員を増やし、1件でも多くの相談に対応出来るよう、「いのちの電話」の周知・深夜の交通手段の確保・など具体的な対策を検討しているが、我々の努力だけでは限界がある。官民あがての理解と経済的支援をお願いしたい。



社会福祉法人 北海道いのちの電話

開局30周年記念式典・ 懇親会開催

2009年6月20日(土) 14時より(出席者約100名)

法人、後援会関係者と旧、現役相談員が参加して、30周年記念事業実行委員会主催の記念式典及び懇親会が開かれた。高杉純二事務局長司会の記念式典では6月1日新理事長に就任した南槇子氏の挨拶のあと、設立以来30年理事長を務められた佐藤巖前理事長に感謝状が「この基本理念から相談員は深い感銘を受けました。与えられた社会的使命をこれからも引き継ぎます」の言葉と共に渡され、大きな拍手がわきおこった。その後、佐藤前理事長が「感無量です。初め、いのちの電話の対等という言葉に重い響きを感じました。多くの方々と共に活動できたことを心より感謝します」と話された。

次に桂信雄後援会会長が「設立当初も1,300万円の資金が必要だった。30年経っているのに1,600～1,700万円しか資金がないのは、我々の努力不足。どうしたらよいか率直に意見を出し合って頑張っていきたい」と決意を述べられた。



その後金井義夫先生よりの祝電が披露され、最後に今回の30周年記念懇親会の主催者・記念事業実行委員会のメンバーと「30周年記念誌」を編集した広報委員会のメンバーが紹介され、記念式典は終了した。続いて懇親会では、実行委員会手作りのお菓子と飲み物を味わいながら、平佐修さんのギター演奏を楽しんだ。先輩相談員の方々のお話も伺うことができ、なごやかな語らいの時間を皆で共有した。



初代事務局長の栄英彦氏が「電話に寄せられた心をどのように分かち合っていけばいいのかが永遠の課題である。それが故に、いつでも新鮮な思いを持って、その時代に悩む人の声を聞いていけるのではないかと……」と語られた。ディレクターと呼ばれていた野田純子氏が「開局からの15年がなかったら、今の自分はなかったであろう。開局のためにお世話になった多くの善意の方々に感謝しています。開局当時には電話だけでなく、やむを得ず対面で関わった方もありました」などと興味深い体験談を披露された。

1期生の義村小夜子氏は「相談員になって良かったのは、生と死とは、隣人になることとは、友達になるとはどういうことかを体験学習、継続研修を通じて深く考えるようになったことでした」。同じく1期生の佐藤忠行氏は「電話を通じて気付かされたことと、研修の勉強によって、私の生き方には大きな影響がありました。奉仕によって自分の人生に素晴らしい恵みが与えられることを確信して、頑張ってください」と心をこめて話された。

新役員 (2009年6月1日付) は新任

理事長 南 楨子

常務理事 高杉 純二

理事 (8名) 今野 渉、佐藤 正晴、島津 宏興
田野島 隆、坪田 伸一、永井 信
間宮 和代、吉田 陸雄

監事 (2名) 永井 和夫、松田 俊一

評議員 (21名) 秋山 暢子、熱田 洋子、池田 和彌
池田 輝明、石井 美雪、植松 誠
太田 一男、小野 道弘、勝谷 太治
加藤 峰、川守田京子、小玉 宏文
小林 幸一、笹生 正恵、佐々木三郎
返町 賢治、田辺 等、築島 健
中村 誠吾、藤島 建樹、米倉美佐男

「北海道いのちの電話」開局 30 周年

記念講演会のお知らせ

『生と死・いのちを受け止めなおす』

講師 藤井 美和先生
(関西学院大学福祉学部人間学科准教授)

日時 2009年8月8日 (土)

14:00~16:00

会場 札幌ウエスト19 5階 こころのセンター
札幌市中央区大通西19丁目

主催 社会福祉法人「北海道いのちの電話」

共催 北海道・札幌市

入 場 無 料

「娘に尊敬される父親」

今川民雄 (北星学園大学・「北海道いのちの電話」研修委員：リーダー研担当)

インターネットで、次のような記事を見つけました。

「女子中高生向けの携帯電話ホームページ運営会社ピーネストが行った『女子中高生の“父の日”に関する意識調査』結果が16日、公表された。『お父さんを尊敬している』女子中高生は5割を超え、4人中1人は『お父さんのような男性と結婚したい』と考えていた。思春期の娘を持つ父親にとって、久々の朗報かも？」

これはあるホームページ作成サイトにアクセスした女子中高生2,001人によるアンケート結果です。素直に「朗報」と受け取る向きもあるでしょう。「でもな～」と思う私があります。「お父さんを尊敬している」娘さんも、「お父さんのような人と結婚したい」と考えている娘さんもいるとは思いますが、一人一人の父親にとっては「自分の娘がそう思っているかどうか」が問題なのであって、調査の結果が問題なのではない、とまず思うんですね。こんな視点って、けっこう大事なのではと思うんです。また私の中の別な私は、なんで「朗報」かって言うと、多分「こんなに多いとは思っていなかった」からだろうけど、多い少ないの判断基準でなんだろう、と首をかしげています。そこで、一つの手がかりとして1982年(27年前)にNHKが中高生3,113名に行った調査データを調べてみました。「あなたの一番尊敬する人は誰ですか」という問いに、女子中高生は一番「父」34.1%、二番「母」18.0%でした。ピーネストのアンケートでは「自分のお父さんを尊敬していますか」と尋ね、「すごく+少し」の回答が女子中高生で56.6%です。数字上は今回のほうが多いように見えますが、「お父さんを尊敬しているか」に対する回答の割合と、「一番は誰だ」への回答の割合では、後者が低くなるのは目に見えています。ちなみに、ピーネストの調査で「お父さんの好きなところは」の問いに「優しい」と答えている女子中高生は29.5%、他方NHKの調査で「お父さんはやさしくてあたたかい人だと思いますか」に対して「そう思う」の女子中高生の回答は72.4%。調査が怪しいとかあてにならないとかいいたいのではありません。結果は「真実」ですが、私たちがそれをどのような見方で受け取るのかによって意味が変わってくることを忘れないようにしなければと思ったことでした。



ご支援ありがとうございます

2009年3月1日～2009年6月30日

上記の期間内に次の方々からご支援をいただきました。お寄せいただいたご厚志は、24時間眠らぬダイヤル活動の貴重な資金として使わせていただきます。なお、銀行、郵便局からの振込の場合、入金まで若干日数を要しておりますので、ご了承下さい。また、期間中のご入金回数等は略させていただきます。

※寄付をされた場合、税制上の優遇措置があります。

銀行振込みご利用の場合は下記口座番号宛、お願いいたします
北洋銀行大通支店 普通預金 301-0238134 北海道いのちの電話
北海道銀行本店 普通預金 101-0604497 北海道いのちの電話
札幌信用金庫本店 普通預金 01-6116682 北海道いのちの電話
お問い合わせ・ご連絡などは下記へお願いいたします
〒060-8693

札幌中央郵便局私書箱 107 北海道いのちの電話事務局
事務局電話 011-251-6464 (後援会専用 011-612-3965)
FAX 011-221-9095

郵便振替口座番号 02770-9-2444
北海道いのちの電話

社会福祉法人 北海道いのちの電話
理事長 南 榎 子
北海道いのちの電話後援会
会長 桂 信 雄

団体会員 (会費・寄付金、敬称略、順不同)

医療法人北仁会 旭山病院
医療法人信和会 石川泌尿器科
医療法人 内科小児科梅谷医院
医療法人広誠会 北ノ沢病院
医療法人五風会 さっぽろ香雪病院
医療法人 ときわ病院
医療法人 中江病院
医療法人 北海道循環器病院
医療法人順真会 メイプル病院
医療法人研成会 札幌鈴木病院
医療法人社団清和会 石井病院
医療法人社団朋友会 石金病院
医療法人社団正心会 岡本病院
医療法人社団栄社会 小原病院
医療法人社団こぶし 札幌こぶしクリニック
医療法人社団 島崎外科胃腸科
医療法人社団 世良心療内科クリニック
医療法人社団健心会 桑園病院
医療法人社団 高台病院
医療法人社団同仁会 長野病院
医療法人社団博友会 北の峰病院
医療法人社団 花岡神経クリニック
医療法人社団慈藻会 平松記念病院
医療法人社団 平山内科胃腸科医院
医療法人社団 ふるや内科小児科医院
医療法人社団 三浦メンタルクリニック
医療法人社団倭会 ミネルバ病院
医療法人社団産婦人科 吉尾医院
大通りつげのクリニック
治療院 スマイル
北海道精神科病院協会
宗教法人 札幌興正寺別院
聖心会 札幌修道院
天使の聖母 トラピスチヌ修道院
マリアの宣教師フランシスコ修道会 札幌第一修道院
真宗大谷派 札幌別院
宗教法人真宗大谷派 大願寺
日本基督教団 千歳栄光教会

札幌市東部仏教会
西本願寺 札幌別院
日蓮宗 妙典寺
日本キリスト教会 札幌発寒教会
日本キリスト教団 麻生教会 有志一同
日本キリスト教団 函館教会
日本聖公会北海道教区
学校法人野幌キリスト教学園 のっぽろ幼稚園
北光幼稚園
旭イノベックス(株)
(株)イーエス総合研究所
石屋製菓(株)
(株)石山組
江別製粉(株)
遠藤興産(株)
(株)開発工営社
(株)クリーンコーポレーション
(株)廣濟堂札幌カントリー倶楽部
坂本建設(株)
佐藤水産(株)
(株)昭和総業
(株)セイコーマート
(株)タケカワ総合コンサルタント
地崎商事(株)
寺岡ファシリティーズ(株)
天然ガス自動車北海道(株)
(株)ドウデン
道路工業(株)
(株)ドーコン
(株)はしもと
(株)平岸グランドビル
(株)藤井工務店
(株)藤井ビル
(株)ホーム企画センター
北栄保険サービス(株)
(株)北雄産業
(株)北洋銀行
北海道電力(株)

北海道郵便通送(株)
北海道旅客鉄道(株) (JR 北海道)
(株)まるいち
(株)ミチウエ
(株)アクト調剤 メトロ調剤薬局
横山食品(株)
横山製粉(株)
和光技研(株)
(有)パディック
札幌市環境局 環境清和会
札幌市市長政策室秘書部秘書課
札幌商工会議所
札幌市厚別区役所 役職会
札幌市交通局 役職者会
札幌市子ども未来局 役職者会
札幌市豊平区役所 部長会
札幌市東区役所 役職者会
財団法人損保ジャパン記念財団
財)札幌市職員福利厚生会 有志一同
社団法人 札幌市医師会
社団法人 札幌中法人会
社団法人 北海道医師会
社団法人 北海道開発技術センター
社会福祉法人 札幌南福祉会
曙地区 曙第14町内会
大札幌建友会
昌志会
全日本自治団体労働組合北海道本部
全日本建設交運一般労働組合札幌学童保育支部
全労済 北海道本部
いのちの電話 ドリーム
北海道教区教務所
北海道鉄道 OB 会
ホテルニューオータニ札幌 マーケティング室
連合北海道
札幌ロータリークラブ

個人会員（会費・寄付金、敬称略、順不同）

青柳 雅子	岡島 静子	黒川 輝世	新谷 健一	富永 嘉昭	藤村 武	山内美奈子
芥川 公子	岡林 律子	黒島 芳江	菅井 忠志	内藤 信子	船越 陽子	山川 節
阿部 芳江	奥岡あけみ	黒田 郁子	菅田 洋子	永井 和夫	古川 隆子	山口 玲子
荒 ひろみ	尾崎美枝子	黒田 幸子	杉原 律子	長江由美子	古本 忠	山田 政光
有川 良	尾関信一・舞	小池 章之	杉本 明	中川久美子	堀井 敏子	大和谷正人・房枝
飯塚 和恵	小野寺裕子	越野 宣之	杉本 拓	中川 洋子	本庄 陽子	山中 克哉
飯塚ちどり	小野 肇	小島 育子	鈴木 清	中島満佐子	本田 享子	山中 貴義
池田真喜子	小野 道弘	後藤 一保	鈴木 サト	永田 幸子	本間 雄	山本 茂雄
伊坂 重孝	角田今日子	後藤 正巳	鈴木 眞一	中平成也・敏子	本間 フジ	山本 光雄
石井 美雪	寛 石雄	後藤 道	鈴木 直子	中田 和子	前田 輝夫	湯浅 志真
石井 嘉	影山 隆之	後藤 美子	鈴木 陽子	永田 京子	牧野 勝幸	遊佐 マサ
石川 幸子	葛西美保子	小林 正徳	須田 明夫	中野 正道	増井 啓子	湯本 俊夫
石川 黎子	笠田 薫	小藤 道子	須藤 寛子	中林 毅	松岡 昭三	横田昌治郎
石黒 直文	片桐 文子	小山 司	瀬戸 武	中村 昭子	松岡 方子	横路由美子
泉 ふみ	勝木 享子	小山 秀昭	相馬 久子	仲山三保子	松岡 泰子	横山 幸子
泉 雅子	桂 信雄	是永 道子	曾我 敏明	奈良 顕子	松下千恵子	横山 末雄
泉 真知子	上遠野徹・静枝	斎藤 雪子	迅町賢治・恵美子	成田セツ子	松下 亮司	吉澤 慶信
和泉 睦子	加藤 龍子	斎藤 テエ	高木きよみ	難波眞木二	松田 俊一	吉田すみゑ
井手 悟	金子 孝子	西東 敏雄	高木 邦子	西田由里子	松原シオリ	吉田 正明
伊藤 忠男	金子 千恵	斉藤 智子	高杉 純二	西村 知治	松平 英明	吉田 陸雄
伊藤千秋・孝子	金子 禎子	榮 英彦	高田知津子	野田 純子	松村 亮一	吉田 桃代
伊藤まち子	鎌倉 敏行	阪口 晶美	高田 浩子	橋本 昭夫	松本 脩三	吉田 洋子
伊藤 義郎	上泉富貴子	坂本 勝彦	高橋 和子	長谷川耕司	松山茂・正子	吉見 紫乃
稲垣 豊穂	萱場 利通	坂本 繁子	高橋 清美	長谷川由雄	丸山 年代	吉峰輝民・洋子
井上美枝子	狩野 廣	坂元 由美	高橋 賢治	幡江美智子	三浦敬一郎	吉見 溶子
井上 敬一	河合 淑子	佐々木僚子	高橋 寛	波多野和子	三浦 俊祐	義村政見・小夜子
井上 圭子	川口宗美・夏代子	笹生 正恵	高橋美奈子	服部 栄	三浦 直也	ヨネザワリュウヤ
井原 貴男	川原 悦子	佐藤 巖	高原久美子	濱出かをる	三浦 則子	米田 榮子
今川 民雄	川原 康子	佐藤 順子	高森 節子	濱田 啓子	三浦 秀紀	渡邊 智圓
岩崎恵美子	河村 和義	佐藤 保	高谷 昌子	林 律子	三浦 光世	匿名：2
岩館 泰子	川村千恵子	佐藤 宣男	滝沢佐和子	早瀬 龍宏	三上 勇津	
上田 稔	川村 徹也	佐藤 壽	多田 英子	樋口 治子	水野さつき	
魚住 昌也	川村 ノリ	佐藤 芳枝	蓼沼 豊	久末 満三	道上 隆敏	
氏原 英良	川守田京子	佐藤 義孝	田辺 等	必守 行男	光崎 正子	
氏原富二子	川守田節子	佐藤 良二	田辺美恵子	平賀 岑吾	南 楨子	
ウチスギハルオ	神埜 文典	寒川ナミエ	田上真理子	平瀬 貞子	南 善巳	
遠藤 司郎	菊地千賀子	澤田 道子	民谷 裕子	平田 勝美	峯後 重子	
大井 相石	木島 知子	澤田美智子	千葉 悟	平野 育子	三宅 正幸	
大泉三千代	北村 覚	澤村 重一	津越 暁子	平原 紀子	宮崎 京子	
大内 栄子	北谷 洋文	塩田 越波	辻 敦子	廣岡 耕三	宮崎 芳幸	
大川八千代	北山多恵子	品川久美子	堤 邑江	広瀬 節子	宮本倭文子	
大澤巖・美美子	木太 陽子	篠本 あき	出口寿美枝	深沢 華子	三好 尚子	
大須賀豊稚	工藤 公子	柴田 陽子	寺山 吉彦	福田 和子	森 公代	
大竹 実	国島やよい	柴田 薫心	天童亜紀子	福田 三行	森 清	
太田 千代	熊谷 菊枝	柴田 牧子	土肥 賢子	藤井 実	モリマサオ	
天津 忠行	熊谷 豊次	清水 京子	東海林義孝	藤 孔仁子	安里章・みや子	
大野 雅弘	熊倉 保	下田昭三・清子	時田 廣	藤田 慶一	保田 桂子	
岡 貞夫	栗原 隆	白石 淨子	富田 籌夫	藤田 幸宏	八幡 敬一	

【今回チャリティーボックスから集金させていただいた会社、団体】

札幌エルムカントリー、鮭 かめ八、日本キリスト教会 札幌北一条教会、道新文化センター、室蘭工業大学生協、大和リゾート(株) ロイトン札幌

- ・記載漏れの方がありましたらご連絡下さい。
- ・銀行振込みで御寄付頂いた方のお名前はカタカナのままとさせていただきます。又、個人情報保護のため、住所が確認できず、領収書をお送りできません。



短歌で遊ぶ

臨床心理士・「北海道いのちの電話」研修委員長

間宮和代



「花の季節」

四月

春霞答えのない問いぶら下げて

歩めば足元キバナノアバナ

五月

春愁の形とも見ゆ八重桜

影を抱きて重々しげに

六月

黄アヤメの咲き初む池を散歩して

水底のぞく犬も水無月



事務局日誌 (2009年)

- 3月 3日(火) 札幌市監査
- 10日(火) 後援会理事会
- 13日(金) 法人監査
- 21日(土) 法人理事会・評議員会
- 28日(土) 市民公開講演会
- 31日(火) 広報105号発行
- 4月 11日(土) 研修委員会
- 25日(土) 30期生認定式・相談員交流会
- 27日(月) 運営会議
- 5月 9日(土) 研修委員会
- 19日(火) 後援会理事会
- 23日(土) 法人理事会・評議員会
- 6月 6日(土) 32期生応募面談・研修委員会
- 9日(火) 法人理事会
- 20日(土) 開局30周年記念会・記念誌発行
- 22日(月) 運営会議

2008年度 会計報告

社会福祉法人 北海道いのちの電話

収 入		支 出	
科 目	累 計	科 目	累 計
寄 付 金	15,227,094	事 業 管 理 費	1,147,479
補 助 金	1,504,028	訓 練 養 成 費	7,121,216
分 配 金	1,100,000	調 査 研 究 費	2,117,500
助 成 金	600,000	広 報 費	959,154
事 業 収 入	866,210	セ ン タ ー 管 理 費	2,961,890
雑 収 入	262,713	セ ン タ ー 人 件 費	4,033,850
		負 担 金	295,000
		開 局 30 周 年 記 念 事 業 積 立 金	500,000
		次 年 度 繰 越 金	423,956
合 計	19,560,045	合 計	19,560,045

(2008年4月1日～2009年3月31日)

編集後記

2009年6月をもって、われらが佐藤巖理事長がご勇退されました。30周年記念誌の巻頭のお写真と広報誌1号の巻頭のお写真を見比べると30年という時の流れが自ずから感じ取られ、長い間われわれ相談員を支えてくださったことに新ためて感じ入るしだいです。本当にありがとうございました。これからも、「良き隣人たれ」という「北海道いのちの電話」開局の志を守っていきたいと思います。

厚労省の人口動態調査によると、2005年、日本の人口は戦後初めて減少した。減少数は、2万1266人である。一方、この年の自殺者は3万553人だった。もちろん様々な要因があって、日本の人口減少は生じているのではあるが、単純に2つの数字を並べてみると、自殺者が減ったら、人口減少にも歯止めがかかるような気持ちになってくる。(Y・I)

社会福祉法人 北海道いのちの電話 (開局1979年1月)
事務局 〒060-8693 札幌中央郵便局私書箱107
TEL 011-251-6464 FAX 011-221-9095
URL <http://www.inochi-tel.com/>

本誌は共同募金の配布金により刊行

発行人 南 槇子
編集人 広報委員会